

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
社会福祉 Social Welfare		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(保育士養成課程必修)	児童フィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程の他の科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
中島 佳子	栄養棟3階	月曜～木曜の授業以外の時間		授業中に指示します
授業の概要				
<p>少子・高齢社会において、わが国はますます福祉重視型の社会を目指している。これから保育士として社会福祉に関わる仕事をめざす学生のために、社会福祉の基本知識を概説する。</p> <p>福祉の基本や福祉関連業種、社会的に見た福祉とは何か、各々の福祉領域で必要不可欠な能力とは何かを学ぶ。またこれまでの福祉理念の変遷、急速に変化している現代社会のこれからの福祉のあり方についても考察する。</p>				
授業の目標				
<p>①保育士として最低限必要な社会福祉の基本的な知識を活用できるようにする。</p> <p>②社会福祉概観を知り、自分の選択する領域の位置を確認・その関連を説明できるようにする。</p> <p>③社会福祉制度の法制を理解し、事業・サービス提供の方法を述べるようにする。</p> <p>④社会福祉の課題やあり方を自らみつけ、自身の考えを述べるようにする。</p>				
授業の方法				
<p>テキストと視聴覚教材、関連資料を使用した講義方式とする。毎回書き込み式の資料を配付するので、ファイリングなど工夫し、復習に利用すること。また毎回、理解度や知識の定着と確認のための小レポートを課す。</p>				
学習の成果（学習成果）				
<p>福祉援助者として社会福祉制度の法制、サービス、事業を説明でき、自分が携わる領域の存在意義を認識し、保育場面における様々な福祉課題に必要な基礎的知識を身につけることができる。</p>				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（授業の目標と進め方、成績評価についての説明、諸注意等）			
第2回目	社会福祉の基礎概念			
第3回目	社会福祉をとりまく状況			
第4回目	社会福祉の歴史と展開			
第5回目	社会福祉制度の仕組みと運営・社会福祉の機関と施設			
第6回目	社会保障・公的扶助（1）			

第7回目	社会保障・公的扶助（2）
第8回目	子ども家庭福祉
第9回目	高齢者福祉（1）
第10回目	高齢者福祉（2）
第11回目	障がい者福祉（1）
第12回目	障がい者福祉（2）
第13回目	これからの社会福祉の課題（1）
第14回目	これからの社会福祉の課題（2）・試験
第15回目	これからの社会福祉の課題（3）

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	以下の視点で判断する。履修上の留意点を遵守し、遅刻なく準備を整え授業に臨んでいること。周りに迷惑をかけるような態度は、減点対象とする。授業終了後の小レポートにて授業のポイントがまとめられていること。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	80%	○×形式、穴埋め問題と論述形式等で出題し、知識及び内容の理解を確認する。
発表内容（態度含む）		
その他		

教科書と参考図書

教科書：「よくわかる社会福祉」ミネルヴァ書房

履修上の留意点・ルール

私語、携帯電話の使用を禁止します。授業に関係のないもの（携帯電話、食べ物、飲み物、化粧品、手帳）はかばんにしまうこと。
資料のデジタル化を禁止します。他者に迷惑をかける行為は退出を求める場合があります。